オオタカ　*Accipiter gentilis* (Linnaeus)

【選定理由】

近年は平野部や都市部への進出例が多く確認されるようになったが、いずれも周辺には広大な農地や河川敷など餌場の存在が不可欠である。平野部における営巣場所は猛禽の繁殖には極めて不安定で脆弱であり、容易に消滅するおそれがある。

【形　態】

全長は雄が 47～52.5cm、雌が 53.5～59cm、翼開長 106～131cm。成鳥は頭部から背と翼上面にかけて暗青灰色で、眉斑や下面は白色で、胸や腹に細かい横斑がある。幼鳥は上面が褐色で下面が淡黄褐色。胸から腹にかけて縦斑がある。脚は黄色で、尾に太く明瞭な横帯がある。他のタカ類に比べて尾が長めで翼は短かめに見える。

愛知県額田郡幸田町, 2019 年 3 月 23 日, 石川 均 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

繁殖期に山地から山麓、丘陵地、平野部の緑地から河川敷まで広く分布するが、山地で姿を見られる頻度は、平地や丘陵地、山麓に比較するとかなり低い。非繁殖期は平野部の河川や池沼、沿岸部の水辺などで生息するものが多くなる。

【国内の分布】

北海道と本州に周年生息して繁殖し、四国、九州では主に冬期に生息する。

【世界の分布】

ユーラシア大陸と北アメリカ北部に広く分布し、7～10 亜種に分けられ北方のものは冬期に南へ移動する。

【生息地の環境／生態的特性】

本来は山地のアカマツでの営巣が普通であったが、松枯れにより現在ではスギや広葉樹に営巣することも普通になっている。獲物の大半は鳥類で、水に飛び込んで水鳥を襲うことも少なくない。繁殖は耕地や林のある里山環境が理想と思われるが、近年は平地の公園や林で繁殖する例も多くなった。県内では、雄は非繁殖期もテリトリーの中に留まるようである。

【現在の生息状況／減少の要因】

近年は山地で繁殖する個体は減少傾向で、山麓から平地で繁殖する個体が増加している。2000 年頃から県内の山地や丘陵地で、繁殖期にノスリが見られるようになり、次第に繁殖するものが増えてきたが、本種の巣でノスリが見られる例は、その早い時期から確認されている。

【保全上の留意点】

生息数が増えたということで、国内希少野生動植物種から除外されたが、県内では山地の生息数が減少傾向にあり、平地や丘陵地でも、周辺の開発による生息環境の悪化や、営巣環境の問題などで、一旦進出した場所から消滅している例もみられることから、今後も継続した観察が必要である。

【特記事項】

本来県内に生息していた本種は警戒心が強く、巣に接近しただけで警戒されて、営巣の放棄につながることもあったが、2000 年頃から増加した個体には、人に対する警戒心が弱いものや、全く警戒心のないものが多くなった。人に対して警戒心が弱い、あるいは警戒心のない個体は関東地方に多く、県内における本種の分布拡大に何らかの関係があるものと推測される。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.74-75. 文一総合出版, 東京.

（高橋伸夫）